

平成30年度教育課程研究指定校事業追加募集公募研究課題

平成30年度における国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程研究指定校事業は、新学習指導要領等の実施を見据え、以下に掲げる公募研究課題（以下、「公募課題」とする。）について、追加募集を行います。

なお、高等学校には中等教育学校後期課程を含みます。

【公募課題1】各教科等に係る研究課題

高等学校 ○ 普通教育に関する各教科等

国語 地理歴史 公民 数学 理科

芸術※（音楽、美術、工芸、書道） 家庭

※芸術については、音楽、美術、工芸、書道の別に指定する。

○ 専門教育に関する各教科

水産 家庭 看護 情報

公募課題1 各教科等に係る研究課題

【高等学校】

学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究

◆ 研究期間：2年間

◆ 実践研究の目的

本研究では、学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関し、研究主題を設定して実践研究を行い、その成果を全国に普及し、各学校での指導改善の参考に資するとともに、今後の教育課程や指導方法等の改善に資する。

◆ 実践研究の内容

- 下記の各教科等の研究課題に基づいて各学校で研究主題を設定し、学習・指導方法及び評価方法の工夫改善について実践研究を行うこと。

その際、次に示す事項の全て又はいずれかに留意して実践研究を行うこと。

- ・基礎的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力等の育成を重視した学習指導
- ・他者との協働性を重視した言語活動を取り入れた学習指導
- ・学習の見通しや振り返りの活動を取り入れたり実社会・実生活との関わりを踏まえたりすることなどにより、生徒に主体性を持たせたり有用性を実感させられたりする学

習指導

- 評価方法の工夫改善については、学習・指導方法の工夫改善と一貫性を持った形で取り組むこと。その際、次に示す事項の全て又はいずれかに留意すること。
 - ・ペーパーテストのみによらない多様な評価方法による観点別学習状況の評価
 - ・主体的に学習に取り組む態度又は「思考力、判断力、表現力等」の観点における評価方法の工夫改善
 - ・基礎的・基本的な知識・技能だけでなく、それらを活用した思考力、判断力、表現力等をも評価するために効果的なペーパーテストの工夫改善
- 研究に際しては、以下の資料も参照すること。
 - ・「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 各共通教科）」
（平成24年3月，国立教育政策研究所教育課程研究センター）
 - ・「総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校）」
（平成24年3月，国立教育政策研究所教育課程研究センター）
 - ・「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 専門教科）」
（平成24年11月，国立教育政策研究所教育課程研究センター）

◆ 留意点

- 実践研究に取り組む際には、下記の各教科等の内容を中心に取り組むほか、応募した学校の課題等も適宜加えて実践研究に取り組むこととする。また、①，②…と複数の研究課題及び，（１），（２）…と複数の内容領域等が提示されている教科等については、特に指示のある場合を除き、その全て又はいずれかを選択して取り組むものとする。
- 平成29年度までに研究指定校として委嘱されている学校が、これまでの研究成果や研究により明らかとなった課題等を踏まえて応募しようとする場合は、それらの成果等を基に新たに平成30年度からの研究でどのような目標を達成しようとするのかを希望調書で明確にすること。

【普通教育に関する各教科等の研究課題】

国語	<p>◇下記の①～③のいずれか一つを選択すること。</p> <p>①「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のいずれかの領域における、実生活や実社会に生きて働く知識・技能及び思考力、判断力、表現力等の効果的な育成に関する学習・指導方法及び学習評価の工夫改善についての研究 （対象科目は、「国語総合」，「国語表現」，「現代文B」のいずれか又は複数の科目とし，対象科目・学年を明記すること。）</p> <p>②「書くこと」又は「読むこと」において、主として創造的・論理的思考の側面から思考力、判断力、表現力等を効果的に育成する学習・指導方法及び学習評価の工夫改善についての研究 （対象科目は、「現代文A」「古典A」を除くいずれか又は複数の科目とし，対象科目・学年を明記すること。）</p> <p>③古典から近現代につながる我が国の言語文化を理解し、言語文化の担い手とし</p>
----	---

	<p>での自覚を高めるための学習・指導方法及び学習評価の工夫改善についての研究（対象科目は、「国語総合」，「現代文A」，「古典A」のいずれか又は複数の科目とし，対象科目・学年を明記すること。）</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の対象とした科目については，学習指導要領の各科目（「国語総合」の場合は当該領域）の指導事項（内容の(1)）の全てを研究対象として取り上げること。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めること。 ・特に「読むこと」の学習指導においては，教材の読み取りに偏らず，自分の考えの形成や読書活動を重視したり，見通しや振り返りの活動を取り入れたりするなど学習過程の適切な設定や生徒の主体性を重視すること。 ・学習評価については，特定の評価方法に偏らない，目標に準拠した観点別学習状況の評価を行い，評価を指導の改善に生かすことに取り組むこと。その際，思考力，判断力，表現力等を適切に評価するペーパーテストの開発等も研究対象に含めること。 ・各教科等と連携した，言語活動の充実に資する言語能力の育成に取り組むこと。
地 理 歴 史	<p>○世界史・日本史・地理関係科目について，各科目の相互の連携を図り，「歴史的な見方・考え方」や，「地理的な見方・考え方」を育成する授業実践の研究</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働かせ，鍛える「見方・考え方」を明確にして，その実現状況を見取るための評価規準を設定すること。 ・世界史・日本史関係科目を取り上げる場合には，近現代の世界と日本の相互の関わりを重視して，指導内容を工夫・改善すること。 ・授業過程では，授業の方向性を定め，生徒の思考を促し，評価につながる「問い」（「大きな問い」と「小さな問い」）を工夫すること。 ・それぞれの単元において，適宜「大きな問い」の考察に向かうための「問い」（＝「小さな問い」）を設定すること。 ・「小さな問い」の考察が，段階的に「大きな問い」の考察につながるように，数時間にまたがる単元を設定すること。 ・歴史関係科目や地理関係科目の「見方・考え方」が深まるように，科目間の協働的な取組を工夫すること。 ・ペーパーテストやワークシート等，複数の評価材料を用意し，生徒の変容をつかめるように工夫すること。
公 民	<p>◇下記の①，②のいずれか一つを選択すること。</p> <p>①次の（ア）の科目において，論述したり討論したりするなどの言語活動を通して，現実の社会の諸課題を主体的に考察させる指導方法の工夫改善についての研究</p> <p>（ア）「現代社会」，「倫理」，「政治・経済」の内のいずれかの科目</p> <p>②次の（イ）の科目において，習得した知識，概念や技能を活用して各科目</p>

	<p>の内容に係る諸課題を主体的に考察させ、思考力、判断力、表現力等の育成を図る指導方法の工夫改善についての研究</p> <p>(イ)「倫理」、「政治・経済」の内のいずれかの科目</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解決方法が一つに定まらず多様な見解のある事柄を取り上げる場合には、生徒の考えや議論が深まるよう、それらの見解の根拠となる資料などを提示することなどに留意すること。 ・評価については、表現された結果だけではなく、思考・判断の過程の評価方法についても研究すること。
数 学	<p>○数学的活動を充実させ思考力、判断力、表現力等を育成する指導の研究</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容のまとまりごとに中心的な内容を明確にし、指導計画を工夫して数学的活動を充実するための時間を確保すること。 ・実生活や実社会との関連を踏まえた課題やゲーム的な要素を取り入れた課題など、生徒の自発的な学習を促し学習意欲を高めるよう提示する課題を工夫すること。 ・問題練習の在り方等（問題の適切さや扱う問題数、質疑応答の有無等）を工夫し、粘り強く考えさせ、生徒同士の質疑応答等を通じて表現を練り上げさせるようにすること。 ・自分の考えを適切に相手に伝えたり、相手の考えを的確に受け止めたりすることができるよう、目的に応じて適宜ペア学習やグループ学習を取り入れるなどの工夫をすること。 ・ペーパーテストで総括的な評価をする場合も、中間テストや期末テストだけを評価対象としないよう適宜確認テストなどを実施するとともに、評価問題についてはねらいを明確にして適切に実現状況を捉えられるよう工夫すること。
理 科	<p>◇科学的に探究する能力や態度の育成に向けた指導方法や評価方法等の研究</p> <p>○育成したい力（何ができるようになるか）を明確にし、どのような学習内容で（何を学ぶか）、どのように学習を展開すると（どのように学ぶか）、どのような効果があるか（何が見に付いたか）を研究すること。なお、科学的に探究するために必要な資質・能力の一部に限定したり、学習過程の一部に焦点をあてて研究してもよい。例えば、以下のような研究が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らが課題を把握して、仮説を設定する力を育成するための指導と評価の研究 ・仮説から観察、実験の計画を立案したり、その結果を分析、解釈したりする力を育成するための指導と評価の研究 ・考察、推論したことから改善策を考えたり、新たな課題を発見したりする力を育成するための指導と評価の研究 <p>※平成 28 年 12 月 21 日中央教育審議会答申 p 37 で示された「資質・能力を育成するために重視すべき学習過程のイメージ」を参考にすること。</p> <p>(http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/)</p>

		<p>afildfile/2017/01/10/1380902_3_2.pdf)</p> <p>なお、研究は理科全体で行うことが望ましいが、例えば、基礎科目（２単位）に限定したものや、特定の学年に限定したものでもよい。</p>
音	楽	<p>○音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとして、音楽の特性に即した思考力、判断力、表現力等を育成する主体的・創造的な音楽表現及び鑑賞の学習を実現する学習・指導方法と評価方法の研究（下記の(ア)～(カ)のいずれかに該当するもの）</p> <p>(ア)「音楽Ⅰ」において歌唱分野又は器楽分野の学習と鑑賞領域の学習との関連を図ったもの</p> <p>(イ)「音楽Ⅰ」において創作分野の学習を含むもの</p> <p>(ウ)「音楽Ⅰ」において鑑賞領域の学習を含むもの</p> <p>(エ)「音楽Ⅰ」において我が国の伝統音楽を学習素材として取り扱うもの</p> <p>(オ)専門学科等（総合学科や普通科のコース等を含む）において、「演奏研究」の趣旨を生かした学習指導の研究を含むもの</p> <p>(カ)「音楽Ⅱ」又は「音楽Ⅲ」において、上記(ア)から(エ)までのいずれかに相当する学習を含むもの</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者との関わりによる学びの深まりを大切に学習過程を含めること。 ・表現領域においては「音楽表現の創意工夫」、鑑賞領域においては「鑑賞の能力」に係る指導と評価の関係及び評価方法を明確にすること。 ・生活や社会の中の音や音楽の働きや音楽文化についての理解に関する内容を含めること。
美	術	<p>◇下記の①又は②のいずれかを一つ選択し、具体的な研究課題を設定すること。</p> <p>①美術Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ（いずれか又は全て）又は専門学科等（総合学科や普通科のコース等を含む）において、表現及び鑑賞において育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にし、主体的に学習に取り組む態度の高まりの中で、資質・能力が総合的に関連して働くようにするとともに、主体的に学習に取り組む態度や、「思考力、判断力、表現力等」の育成を重視した指導方法及び学習評価についての研究</p> <p>②美術Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ（いずれか又は全て）又は専門学科等（総合学科や普通科のコース等を含む）において、表現及び鑑賞において育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にし、中学校美術科の内容に示されている〔共通事項〕（「形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。」及び「形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。」の２事項）を造形的な視点として「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導に効果的に取り入れるとともに、主体的に学習に取り組む態度や美術を愛好する心情を育て、美術の諸能力を伸ばし、美術文化の理解を図ることを重視した指導方法及び学習評価についての研究</p> <p>【留意点】</p>

		<p>・「思考力、判断力、表現力等」に関連する発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力の育成に当たって、効果的に言語活動を位置付けた指導方法を研究に含めること。</p> <p>・学習評価については、国立教育政策研究所が公表している「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 芸術〔美術〕）」に示されている内容を基に研究をすること。</p>
工	芸	<p>◇下記の①又は②のいずれかを一つ選択し、具体的な研究課題を設定すること。</p> <p>①工芸Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ（いずれか又は全て）又は総合学科や普通科のコース等において、表現及び鑑賞において育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にし、主体的な学習に対する態度の高まりの中で、資質・能力が総合的に関連して働くようにするとともに、主体的に学習に取り組む態度や、「思考力、判断力、表現力等」の育成を重視した指導方法及び学習評価についての研究</p> <p>②工芸Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ（いずれか又は全て）又は総合学科や普通科のコース等において、表現及び鑑賞において育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にし、中学校美術科の内容に示されている〔共通事項〕（「形や色彩，材料，光などの性質や，それらがもたらす感情を理解すること。」及び「形や色彩の特徴などを基に，対象のイメージをとらえること。」の２事項）を造形的な視点として「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導に効果的に取り入れるとともに，主体的に学習に取り組む態度や工芸を愛好する心情を育て，工芸の諸能力を伸ばし，工芸の伝統と文化の理解を図ることを重視した指導方法及び学習評価についての研究</p> <p>【留意点】</p> <p>・「思考力、判断力、表現力等」に関連する発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力の育成に当たって，効果的に言語活動を位置付けた指導方法を研究に含めること。</p> <p>・学習評価については，国立教育政策研究所が公表している「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 芸術〔工芸〕）」に示されている内容を基に研究をすること。</p>
書	道	<p>○書道Ⅰにおいて，育成する資質や能力と学習内容との関係を明確にし，「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の相互関連を図りながら，生徒の思考力，判断力，表現力等を育成する指導方法の工夫改善と評価方法についての研究</p> <p>【留意点】</p> <p>・表現と鑑賞の相互関連を図り，言語活動の充実を図りながら，意図に基づいて作品を構想し表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の価値を考えたりする学習を適切に位置付けること。</p> <p>・生活や社会の中で書が果たしている役割等から書の伝統と文化について理解を深める学習を設定すること。</p> <p>・作品を構想し表現を工夫していく一連の制作過程や作品の価値やその根拠</p>

	について考えていく鑑賞に視点をあて、学習の実現状況を適切に把握する評価について工夫改善を行うこと。
家庭 (共通教科)	<p>○生涯を見通して主体的に生活上の課題を解決し、家庭や地域の生活を創造する能力を育成するための学習・指導方法及び評価方法の研究</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の実施を見据え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組むこと。その際、深い学びの過程を実現する指導方法を工夫すること。 ・生徒が課題意識をもって、主体的に学習に取り組むための指導方法、評価方法について研究すること。その際、課題解決の過程を重視した指導の工夫・改善に努めること。 ・子供や高齢者など様々な人々と触れ合い、他者と関わる力を高める活動、衣食住などの生活における様々な事象を言葉や概念などを用いて考察する活動、判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり適切な解決方法を探究したりする活動などを充実すること。 ・学習評価については、評価を指導の改善に生かすことができるよう、評価計画や評価の時期、評価方法などを工夫すること。特に、「思考力、判断力、表現力等」の評価の工夫・改善に努めること。

【専門教育に関する各教科等の研究課題】

水産	<p>○水産・海洋の諸課題を解決にするために必要とされる思考力、判断力、表現力等を育てる学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究に取り組む科目数については、複数で行うことも可能とする。また、科目の一部を取り上げることとしてもよい。 ・新しい学習指導要領を見据えた効果的な学習・指導方法についての研究を行うものとする。 ・ペーパーテストのみによらない多様な評価方法による観点別学習状況の評価についての研究を行うものとする。
家庭 (専門教科)	<p>○生徒の主体性を育み、生活の質の向上と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てるための指導方法及び評価方法についての研究</p> <p>※原則履修科目である「生活産業基礎」を含めたその他の1科目以上について研究すること。</p> <p>【留意点】</p> <p>以下の内容について取り組むこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の実施を見据え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組むこと。その際、深い学びの過程を実現する指導方法を工夫すること。 ・実践的・体験的な学習の指導方法を工夫し、授業の過程の質的な改善に努めること。

	<ul style="list-style-type: none"> ・生活産業のスペシャリストとして、地域を支える視点を明確にした指導方法について工夫すること。その際、地域との連携については、どのような取組が地域の活性化や学校及び生徒の変容につながったのか、その過程を明確にすること。 ・「生活産業基礎」については、消費者の多様なニーズを捉える調査方法や結果を商品開発等に活用する指導方法を工夫すること。 ・学習評価については、評価計画や評価の時期、評価方法などを工夫し、指導の改善に生かすよう努めること。また、特定の評価に偏らないよう多様な方法による観点別学習状況の評価について研究すること。
看 護	<p>○新しい学習指導要領を見据え、看護を通じ、地域や社会の保健医療福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人を育成するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の対象科目は、一つでも、複数でもよい。また、科目の内容の全てではなく、一部でもよい。 ・生徒の主体的・対話的で深い学びを実現する学習の工夫改善について研究すること。 ・実践的・体験的な学習を通して生徒の共感力を高め、多様性の理解を深める指導の工夫を図ること。 ・評価方法については、生徒が自分の課題を発見し、主体的に取り組んでいくことを支援する視点からも工夫改善を図ること。
情 報 (専門教科)	<p>○情報社会の発展を担う情報産業分野で活躍する人材を育成するための学習・指導方法及び評価方法の工夫・改善に関する実践的研究</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の実施を見据えた内容とすること。 ・研究の対象は一つの科目でも、複数の科目でもよい。また、取り上げる科目の内容は全てではなく、単元でもよい。 ・問題の発見や解決の過程を通して、生徒の主体的・対話的で深い学びの中で思考力、判断力、表現力等の育成を行うこと。 ・多様な見方を育てるためにペア学習やグループ学習を取り入れ、適宜発表などの活動を行い、積極的に質疑応答させるなど、言語活動の充実に努めること。 ・情報産業における情報モラルの育成について配慮すること。 ・評価方法の工夫・改善については、ペーパーテストのみによらない多様な方法による観点別学習状況の評価について ICT の活用も含めて研究すること。 ・必要に応じて大学や専門学校等の高等教育機関、企業及び公共機関等との連携を行う。